『地域共創学会誌』，創刊号，101–114，2018
KYUSHU SANGYO UNIVERSITY, *Journal of Collaborative Regional Development* No. 1, 101-114, 2018

【研究ノート】

第五世代の博物館に関する一試案
―道の駅にある博物館を事例として―

緒　方　　泉

要　約

戦後，第一世代から第四世代と進んだ博物館は，2020年の東京五輪を前に，第五世代の博物館を模索している。

2018年3月に閣議決定された「文化芸術推進基本計画」は，博物館は「教育機関・福祉機関・医療機関等の関係団体と連携して様々な社会的課題を解決する場としてその役割を果たすこと」が求めた。しかし，全国に約5,700ある博物館で働く学芸員は平均1.37人しかいないことを考慮した場合，この計画を実行するには新たな視点が必要となる。

今回は「道の駅にある博物館」の事例から，第五世代の博物館のあり方についての試案を提示したい。

Keyword：第五世代の博物館，道の駅，伊藤寿朗

1．博物館とは？

「博物館ハ世界中ノ物産，古物，珍物ヲ集メテ人ニ示シ，見聞ヲ博クスルタメニ設ケルモノナリ」

これは，福澤諭吉が「西洋事情」[1]で記した一節である。1862年に遣欧使節団の一員としてフランス，イギリス，オランダ等を視察した福澤は，わが国に初めて「博物館」の意味を伝えた。

現在，全国に博物館は約5,700館があり，そこで7,800名ほどの学芸員が働いている[2]。

博物館法第2条で「博物館」は，

「歴史，芸術，民俗，産業，自然科学等に関する資料を収集し，保管（育成を含む。以下同じ。）し，展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し，その教養，調査研究，レクリエーション等に資するために必要な事業を行い，あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関」

と定義される。「集メテ（＝収集）人ニ示シ（＝展示），見聞ヲ博クスル（＝教育）」という福澤の「博物館観」は，確実に踏襲されている。しかし，その内容は時代の変化や人々のニーズに伴い変遷していく。以下，そうした博物館の変遷論＝世代論について説明したい。

2．博物館の世代論

伊藤寿朗は，第二次世界大戦後から1980年代までの博物館を大きく3つの世代に分けて説

1　マリオン・ソシエ他編（2002）「福澤諭吉著作集第1巻西洋事情」p48，慶應義塾大学出版会。
2　文部科学省「2015年度社会教育調査」。

明した[3]。

【第一世代】，それは「保存」を重視した博物館である

「国宝や天然記念物など，希少価値をもつ資料（宝物）を中心に，その保存を運営の軸とする古典的博物館」があげられる。そこではつねにモノが中心にあり，その保存が博物館の第一義的な目的となる。博物館法制定（1951）以前に成立した博物館や個人を顕彰した記念館などが該当する。

【第二世代】，それは「公開」を重視した博物館である

「資料の価値が多様化するとともに，その資料の公開を運営の軸とする現在の多くの博物館」があげられる。1960年代末から開館した県立博物館や中規模の市立博物館などが該当する。

【第三世代】，それは「参加・体験」を重視した博物館である

当時，伊藤は「（第三世代は）社会の要請にもとづいて，必要な資料を発見し，あるいはつくりあげていくもので，市民の参加・体験を運営の軸とする将来の博物館」とし，1980年代前後に開館した博物館を対象とした。しかし，「第三世代とは期待概念であり，典型となる博物館はまだない」としながらも，大阪市立自然史博物館，横須賀市自然・人文博物館（神奈川県），川崎市青少年科学館（神奈川県），宮城県美術館，平塚市博物館（神奈川県）で新しい事例が見られるとした。

それから20年経過し，21世紀を迎えて日本博物館協会は「対話と連携の博物館」という報告書をまとめた[4]。その中で，「対話と連携の活動原則」として，次の8項目を掲げた。

【対話】

①博物館は博物館活動の全工程を通して対話する。−収集保管・調査研究から新展示・慰楽まで−

②博物館は利用者，潜在利用者の全ての人々と対話する。−面談からインターネットの双方向流まで−

③博物館は年齢・性別・学歴・国籍の違いと，障害の有無を越えて対話する。−施設・情報を全てのひとに利用可能にする−

④博物館は時間と空間を越えて対話する。−博物館のIT革命を推進する−

【連携】

①博物館は規模別，館種別，設置者別，地域の相違を超えて連携する。−相互理解が連携の道を拓く−

②博物館は学校，大学，研究所等と連携する。−博物館活動は科学的基盤を整備する−

---

[3] 伊藤寿朗（1993）『市民の中の博物館』吉川弘文館。

[4] 日本博物館協会調査報告書（2001）『対話と連携の博物館』。

③博物館は家庭，行政，民間団体，企業等地域社会と連携する。−市民参画が新しい地域文化を創造する−

④博物館はアジア，太平洋地域及び世界の博物館・博物館関係機関と連携する。−地域連携か

表１　博物館の世代論一覧表

博物館界全体の動向	全国的な状況
第二次世界大戦後 【第一世代の博物館】 「国宝や天然記念物など，希少価値を持つ資料＜宝物＞を中心に，その保存を運営の軸とする古典的博物館」 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	1951年 博物館法施行 1968年 明治100年記念事業を背景として， 国立博物館のミニチュア版としての県立博物館が開館ラッシュ。
1960年代末から 【第二世代の博物館】 「資料の価値が多様化すると同時に，その資料の公開を運営の軸とする現在の多くの博物館」 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	1973年 公立博物館の設置基準
1980年代前後から 【第三世代の博物館】 「社会の要請に基づいて，必要な資料を発見し，あるいは作りあげていくもので，市民の参加・体験を運営の軸とする博物館」 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	1986年 報告書「社会教育施設におけるボランティア活動の促進について」 （社会教育審議会） 1993年 国上交通省「道の駅」登録開始
2000年代前後から 【第四世代の博物館】 「市民の参加・体験を深化させるため，博物館活動に関わる全ての「ひと・もの・こと」と対話し，連携する博物館 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	2001年 報告書「対話と連携の博物館」（日本博物館協会） 2003年 報告書「博物館の望ましい姿」（日本博物館協会） 地方自治法一部改正による指定管理者制度導入
2020年東京オリンピックに向けた これからの博物館 【第五世代の博物館】 「対話と連携を深化させ，さらに設置理念を再確認し，機能別分化の強化を図ると共に，地域振興・観光・教育・福祉と協働しながら利用者をもてなす複眼的な博物館 」 ＊モデル例は「道の駅にある博物館」 ①長野県上田市「美ヶ原高原美術館」 道の駅「美ヶ原高原」 ②北海道函館市「縄文文化交流センター」 道の駅縄文ロマン「南かやべ」 ③熊本県山都町「清和文楽館」 道の駅「清和文楽邑」など	2011年博物館数5,747館，学芸員数7,293人 2012年新学芸員養成課程開始 2014年 「文化芸術立国中期プラン」（文部科学省） 2015年MUSEUM2015開催 2015年博物館数5,683館，学芸員数7,821人 2017年文化芸術基本法制定 2018年文化芸術推進基本計画（第1期） 2019年ICOM京都大会に向けた活動 2020年東京五輪に向けた文化プログラム展開

＊伊藤寿朗「市民のなかの博物館」（吉川弘文館，1993年），三重県文化審議会新博物館のあり方部会（2007年9月）資料「博物館建設目的の変遷と先進事例」を基に緒方が加筆修正。

ら国際連携へ–

ここに伊藤の第三世代を継承する【第四世代】,「対話と連携」の博物館がスタートすることになる。それは「市民の参加・体験を深化させるため，博物館活動に関わる全ての『ひと・もの・こと』と対話し，連携する博物館」と言える（表 1）。

そして今。2020年東京五輪の開催を前に，博物館は第五世代を検討する時期に立っている。そのためには，まず博物館の現状を知る必要がある。そして，2015年 3 月のユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が採択した「ミュージアムとコレクションの保存活用，その多様性と社会における役割に関する勧告（以下，2015ユネスコ博物館勧告という）」や2018年 3 月に閣議決定された「文化芸術基本計画」から，国内外の博物館政策を捉え，第五世代の博物館を検討する材料を見つけたい。

3．博物館の現状と国内外の博物館政策

文部科学省は 3 年毎に,「社会教育行政に必要な社会教育に関する基礎的事項を明らかにすること」を目的として，社会教育調査を実施している。調査項目には「社会教育行政調査」「公民館調査」「図書館調査」「青少年教育施設調査」「女性教育施設調査」「体育施設調査」「劇場,音楽堂等調査」「生涯学習センター調査」と共に,「博物館調査」も含まれる。

直近となる2015年度調査結果では,

①博物館数（博物館登録施設，相当施設,類似施設）は5,690館（2011年度調査は5,747館）であった（表 2）。全国の市町村数は1,718（2014年 4 月現在，総務省調べ）のため，1 市町村に平均3.3館の博物館があること。

②学芸員数は7,821人（2011年度調査は7,293人）であった。前回調査から数は増加しているものの，専任の占める割合が前回調査から0.7%減少して52%となり，さらに非正規職員が48%を占めたこと。

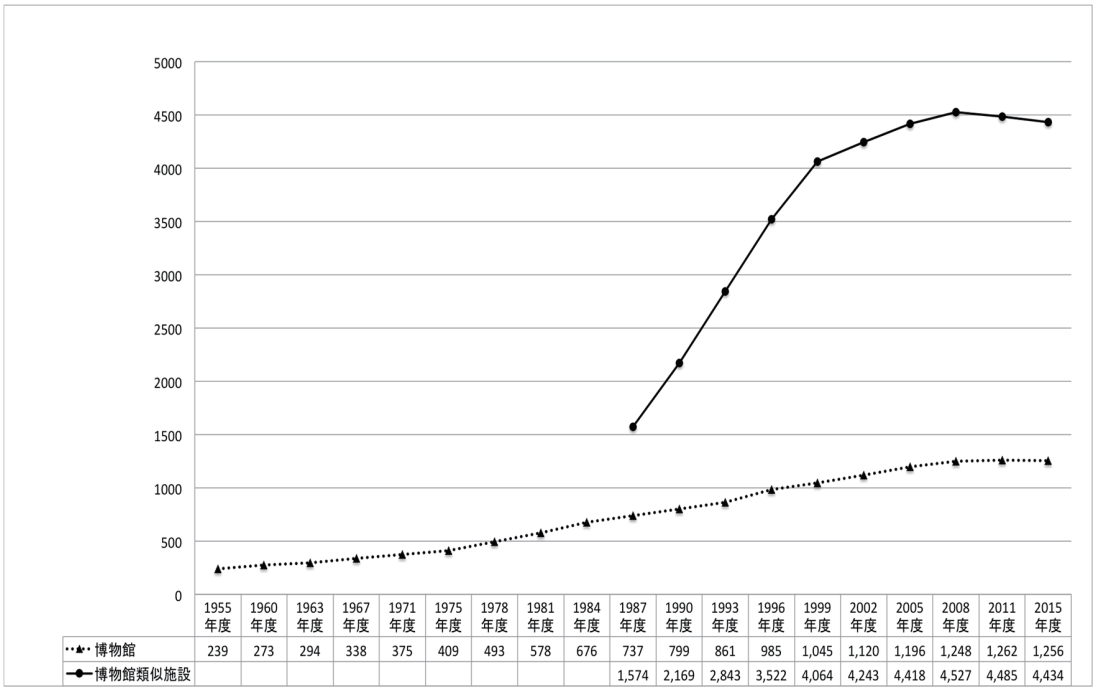
③1館で働く学芸員数が1.37人で,前回調査（1.44人）より減少したこと。

④国民は 1 年間に1.1回しか博物館を訪問しないこと。

などが判明した。

こうした厳しい状況があるにも関わらず，2018年 3 月に閣議決定された「文化芸術推進基本計画」の中で「美術館，博物館，図書館等は，文化芸術の保存・継承，創造，交流，発信の拠点のみならず，地域の生涯学習活動，国際交流活動，ボランティア活動や観光等の拠点など幅広い役割を有している。また，教育機関・福祉機関・医療機関等の関係団体と連携して様々な社会的課題を解決する場としてその役割を果たすことが求められている。」とし，美術館，

表 2　日本の博物館数の推移（文部科学省「社会教育調査」）



	1955年度	1960年度	1963年度	1967年度	1971年度	1975年度	1978年度	1981年度	1984年度	1987年度	1990年度	1993年度	1996年度	1999年度	2002年度	2005年度	2008年度	2011年度	2015年度
博物館	239	273	294	338	375	409	493	578	676	737	799	861	985	1,045	1,120	1,196	1,248	1,262	1,256
博物館類似施設										1,574	2,169	2,843	3,522	4,064	4,243	4,418	4,527	4,485	4,434

博物館が地域の様々な機関と連携し，社会的な課題を解決する場として機能していくことを取り上げている。

また，「学芸員については，美術館，博物館が社会包摂や地域創生の礎となることが求められている近年において，作品や資料の収集，調査研究，展示企画の更なる充実や，適切に保存，取り扱うための専門性の向上に加え，教育普及活動の更なる充実や地域振興，観光振興等への対応も求められている。」とし，地域の一員としての学芸員の役割を強調していることが注目される。

こうした博物館界への強い期待は，2015ユネスコ博物館勧告を意識したものと言える。

この勧告は，まず博物館について「社会とその発展に奉仕する非営利の恒久的施設で，公衆に開かれており，教育と研究と娯楽を目的として人類と環境に関する有形無形の遺産を収集し，保存し，調査し，伝達し，展示するもの」と定義している。そして，その社会的役割について「ミュージアムは社会全体に語りかけるゆえに社会的な繋がりと団結を築き，市民意識の形成また集団的アイデンティティを考える上で，重要な役割を持つ公共空間である。ミュージアムは，恵まれない立場のグループを含め，すべての人に開かれた，あらゆる人々の身体的・文化的アクセスを保証する場であるべきである」と記している。

4．世論調査に見る博物館への要望

ところで，「国民が年間1.1回しか訪問しない博物館」に対する関心度の低さの要因は，一体

何であろうか？

2016年度「文化に関する世論調査[5]」（内閣府）で，どうすれば美術館や博物館にもっと行きやすくなると思うかを聞いたところ，

①「入場料が安くなる」　32.6%，

②「住んでいる地域やその近くに美術館・博物館ができる（増える）」　30.7%

③「美術館や博物館へ行くための交通の利便が良くなる」　23.6%

④「展覧会の開催に関する情報がわかりやすく提供される」　22.0%

⑤「閉館時間が遅くなり，夜間でも鑑賞できるようにする」　19.2%

また都市規模別に見ると，大都市では ①「入場料が安くなる」②「展覧会の開催に関する情報がわかりやすく提供される」③「閉館時間が遅くなり，夜間でも鑑賞できるようにする」を挙げた人が多かったが，小都市では「住んでいる地域やその近くに美術館・博物館ができる（増える）」という回答が多かった。

また，2013年の「リサーチバンク」によるアンケート[6]で，「あなたはなぜ美術館・美術展に行かないのですか？」と尋ねると，

①「近くに美術館がない」　35.4%

②「きっかけがない」　35.1%

③「絵画や美術品に興味がない」　34.5%

④「楽しいと思わない」　25.0%

⑤「入場料が高い」　23.7%

⑥「時間がない」　18.0%

⑦「何が開催されているかなどの情報がない」　16.0%

2つの調査結果から，「交通の利便性」「低廉な入場料」「情報提供」「娯楽の提供」など，いくつかの博物館の利用意欲に関わる要因を解決することが，新たな利用者の開拓に繋がり，第五世代の博物館を考えるヒントを得る機会になるのではないだろうか。

5．利用者の声から考える第五世代の博物館イメージ

「日本のこころのうたミュージアム」

---

[5] 内閣府「2016年度世論調査『文化に関する世論調査』」（2016年9月調査）。

[6] リサーチバンク「美術館・美術展に関する調査」（2013年11月調査）。
http://research.lifemedia.jp/2013/11/131113_art.html（2018年9月検索）。

「函館で縄文のこころを繙く」

「海にきらめく幻想的な光 富山湾の神秘 ほたるいかに触れて学べるミュージアム」

思わずどこにあるか？と気になるキャッチコピーを掲げる場は，すべて道の駅にある「船村徹記念館（道の駅日光，栃木県日光市）」「函館市縄文文化交流センター（道の駅縄文ロマン南かやべ，北海道函館市）」「ほたるいかミュージアム（道の駅ウェーブパークなめりかわ，富山県滑川市）」である。

これまで博物館のキャッチコピーは，どちらかと言えば，「〇〇展覧会開催」というように事業案内が中心で，明確に博物館の魅力を打ち出ことはなかった。つまり，「展覧会のウリ」や「博物館の特色」を伝えることが少なかった。

ところが，「標高 2000m の野外彫刻美術館」というキャッチコピーの「美ヶ原高原美術館（道の駅美ヶ原高原，長野県上田市）」は，道の駅にあるからこそ多様な付加価値を提供していることが利用者の声[7]から窺える。

「「雲の上の美術館」美術館と言うと子連れには敷居が高いのですが，こちらの美術館は子供向けスタンプラリーや屋外展示が多いので見学しながら散歩もできます。施設の中にはこども美術館もあり，何かしらが芸術に結びついているであろう室内アスレチックがあります」

その他，以下のような声からも「道の駅にある博物館」の存在感が浮かび上がる。

〇日高山脈博物館（道の駅樹海ロード日高，北海道沙流郡日高町）

道内唯一の岩石・地質を収集展示する自然史博物館。日高山脈登山情報も提供する。

「日高山脈の成り立ちや自然，地質について学ぶことができる施設です。道の駅 樹海ロード日高の敷地内にあります。地質についての展示はかなりマニアックで，たくさんの岩石や鉱物のサンプルが展示されていました。学生時代に地質学を専攻していたので，楽しく観覧することができました。地質に興味がある方にはお勧めします」[8]

〇田舎館村埋蔵文化財センター（道の駅「いなかだで」，青森県南津軽郡田舎館村）

日本北端の弥生時代の水田跡が発掘された場所に立つ埋蔵文化財センター・博物館。

「田んぼアートばかり有名ですが，こちらの埋蔵文化財センターもなかなか見るべきものがあります。一番，面白かったのは弥生人の足跡でしょうか。 水田跡にたくさんの弥生人の足跡がのこっていて，展示されています」[9]

〇おさかな館（道の駅「虹の森公園」，愛媛県北宇和郡松野町）

四万十川をはじめ，淡水に棲む魚を中心に，河口域に生息する「アカメ」などを展示。

---

7 トリップアドバイザー「美ヶ原高原美術館」口コミで検索（2018 年 9 月検索）。
8 トリップアドバイザー「日高山脈博物館」口コミで検索（2018 年 9 月検索）。
9 じゃらん観光ガイド「田舎館村埋蔵文化財センター」口コミで検索（2018 年 9 月検索）。

「こじんまりとした水族館で，都会の有名な水族館ほどの魚はいませんが，じっくりと間近で魚を見ることができ，魚への餌やりやワニのシャワータイム，ペンギンのお散歩など，お客さんを満足させるよう工夫されていることがよくわかります」[10]

〇清和文楽館（道の駅「清和文楽邑」，熊本県上益城郡山都町）

九州唯一の文楽専用劇場を持つ博物館。江戸末期から伝わる文楽人形芝居を上演。

「旧清和村の人々が農閑期に楽しんできた人形浄瑠璃が今も受け次がれていて，200名が収容できる文楽館で定期講演や特別公演が開催されています。1,500円の入場料で公演も資料館の見学もできます。公演では人形の説明やふれあいの時間もあって，文楽を知らなくても楽しめました。熊本県では唯一の文楽です。隣接する道の駅にはレストランがあり，物産も豊富でした。芝生の公園もあって，ベンチでくつろぐこともできます」[11]

こうした利用者の声から気づくことは，これまでの「博物館だけを見に行く」から「博物館も見に行く」という意識の変容がみられることである。つまり，博物館が「道の駅」と一体となることで，単独型から地域協働型へ変化していき，「あれもある，これもある」「あれもできる，これもできる」というように，利用者の多様なニーズを満足させていることがわかる。

それは，博物館がバラバラに機能するのではなく，道の駅という場に機能を集中させることで，地域全体での「おもてなし」にも繋がっている（図 1）。

図 1 を見ると，これまでは左側のように，それぞれがそれぞれに機能し，ほとんど連携することがなかった。しかし，先述のとおり道の駅，そして道の駅にある博物館を起点に，運営者は地域を知らせる場を作り，生産者は地域を学び，地域を活かした食材を提供し，利用者は買う，食べることを通じながら，地域を学びとるという関係が生まれてくる。

先述のとおり，博物館が道の駅にあるからこそ，地域の独自性を出しやすく，協働しやすい，そして道の駅を介した地域の一員として機能しやすい。

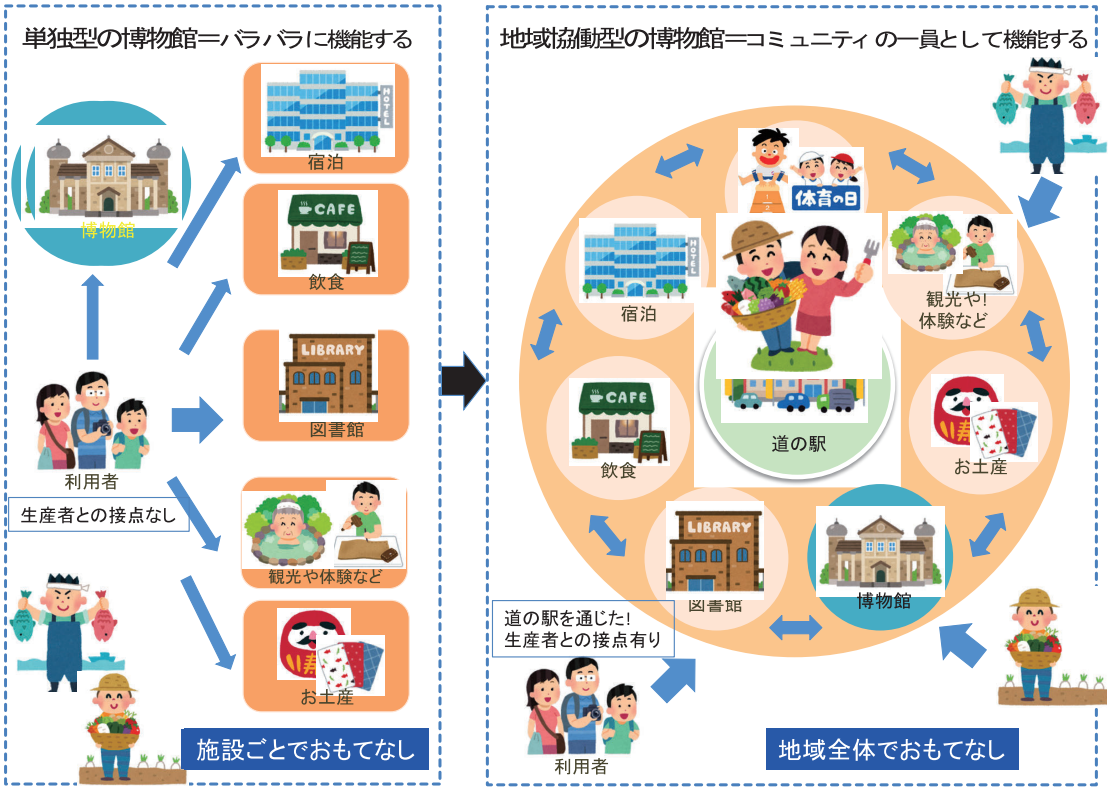
これは，「文化芸術推進基本計画」で言われる「美術館，博物館，図書館等は，文化芸術の保存・継承，創造，交流，発信の拠点のみならず，地域の生涯学習活動，国際交流活動，ボランティア活動や観光等の拠点など幅広い役割を有している。」こととも一致してくる。

6．道の駅とは？そして，道の駅にある博物館数は？

さて，「道の駅」は如何なる場なのだろうか，どのようにして設置されるのだろうか，その

[10] トリップアドバイザー「おさかな館」口コミで検索（2018 年 9 月検索）。
[11] じゃらん観光ガイド「道の駅 清和文楽邑」口コミで検索（2018 年 9 月検索）。

図 1　第五世代の博物館イメージ（単独型から地域協働型へ）



出典：HP「いらすとや」

概要をまとめてみたい。

国土交通省が 1993 年から登録を始めた道の駅は，利用者のニーズを叶えるための 3 つの機能を有し，2018 年 4 月現在，全国に 1,145 カ所[12] ある。3 つの機能を具体的に見ると①「安心して立ち寄れ，利用できる快適な休憩のための「たまり空間のニーズ」を叶える休憩機能，②「地域情報を活用した個性豊かなサービスに対するニーズ」を叶える情報発信機能，③「道の駅が地域の核となり，地域づくりの振興や地域連携の促進を期待するニーズ」を叶える地域の連携機能となる。こうした 3 つの機能は現在も変わることはないが，東日本大震災などで防災拠点としての役割が注目されて以来，「防災」「地域福祉」「観光」など多様な役割も期待されるようになっている。

道の駅建設に伴う費用はおおむね駐車場等を国が，情報発信施設を市町村等が分担する。従って，情報発信機能を持つ博物館は基本的に市町村等が整備することになる。

先述のとおり，全国の博物館は数を減らしているわけだが，東京五輪までの間に道の駅の数が増えれば，道の駅にある博物館も増えていく可能性がある。

今回は①「道の駅 旅案内全国地図　平成 27 年度版」ゼンリン，2015 年，②国土交通省 HP

[12] 国土交通省 HP「道の駅案内」参照。

「道の駅案内」，③全国「道の駅」連絡会HPから道の駅にある博物館，美術館，水族館等の名称を抽出し，さらに④道の駅（2018年4月現在，1,145カ所）公式HPを渉猟し，その存在を確認した。確認時には，博物館法の「博物館の定義」に準拠し，「収集」「保管」「展示」「教育」の機能を有し，かつ日常的な情報発信活動を行っている館をリストアップした。その結果，リストアップされた合計143館となり，道の駅（1,145ヶ所）全体に対する博物館の割合は12.5%となった（別表1）。地域別に見ると，北海道（23館，16.1%），東北（22館，15.4%），北陸（20館，14.0%），関東（17館，11.9%），四国（15館，10.5%）であった。

このことから，道の駅にある博物館は都市部よりも地方に集中する傾向があることがわかる。さらに縄文遺跡，古墳や移築した小説家の旧宅などを活用した野外博物館や道の駅がある川沿いや海沿いに生息する生き物を展示する水族館，地元出身の偉人を顕彰する館などが多くあるということは，その地域にゆかりのある，地域色が出る文化財を意識した，つまり機能分化した博物館づくりがなされていることもわかる。

7.「第五世代の博物館」試案

これまでの博物館は図1左側で見るように，それぞれがそれぞれに独立して機能していた。しかし，今回の調査で道の駅，そして道の駅にある博物館によって，図2右側で見るような「運営者は地域を知らせる場を作り，生産者は地域を学び，地域を活かした食材を提供し，利用者は買う，食べることを通じながら，地域を学びとる」というお互いにメリットが生まれる関係性が構築できることがわかった。

また博物館が道の駅にあるからこそ，地域の独自性を出しやすく，協働しやすい，そして道の駅を介したコミュニティの一員として機能しやすいということもわかった。

日本の博物館は伊藤寿朗が提唱した「保存」の第一世代，「公開」の第二世代，そして「参加・体験」の第三世代を踏まえ，21世紀を迎え「対話と連携」の第四世代に移行していった。

そして2020年の東京五輪を前に，第五世代の博物館像を考える場合，道の駅にある博物館モデルにすると新たな基軸が開ける可能性があることがわかってきた。つまり今回の研究を通じて，今後の博物館はこれまでの「保存」「公開」「参加・体験」「対話と連携」を深化継承しつつ，「機能別分化と協働」がキーワードになると考えられる。

ところで，博物館世代論を展開した伊藤寿朗は30年ほど前に，博物館の3つの型を提唱している[13]。それらは「地域志向型博物館」「中央志向型博物館」，そして「観光志向型博物館」

[13] 伊藤寿朗（1991）「ひらけ博物館岩波ブックレット」No.188，岩波書店。

図 2　博物館の四つの型（引用文献 13 伊藤の図に加筆）

伊藤寿朗（1991、岩波ブックレットNo.188）「博物館の三つの型」

	地域志向型博物館	中央志向型博物館	観光志向型博物館
目的	地域に生活する人々のさまざまな課題に博物館の機能を通してこたええていくこと	人々の日常的生活圏や特定のフィールドをもたず、全国・全県単位などで科学的知識・成果を普及すること	地域の資料を中心とするが、市民や利用者からフィードバックを求めない観光利用
調査・研究の軸	人びとの生活課題	各専門領域ごとの法則や法則性	稀少性
教育内容編成の軸	地域と教育内容の関連を重視する	組織された知識・技術の体系を重視	稀少価値を重視
教育方法の軸	ものを考え、組み立て、表現する能力の育成	知識の教授	資料のもつ意外性、人気を中心とする

	地域資源志向型博物館
目的	地域色・ 機能分化を明確にした博物館で、地域住民と地域外住民が知の交流をする
教育内容	地域住民と 地域外住民の地域資源探求活動の成果公開
教育方法	地域住民と 地域外住民の協働による既存知の交流から、新たな創造知を構築する

となる。

道の駅にある博物館をモデルにして，第五世代の博物館像を考えた場合，伊藤の提唱する「地域志向型博物館」と「観光志向型博物館」を融合した，図 2 のような「地域資源志向型博物館」が提案できるのではないかと考える。

博物館の目的は「地域色，機能分化を明確にした博物館で，地域住民と地域外住民が知の交流をする」であり，そのための教育内容は「地域住民と地域外住民の地域資源探究活動の成果公開」を目指し，その教育方法は「地域住民と地域外住民の協働による既存知の交流から，新たな創造知を構築する」というものである。これは，2015ユネスコ博物館勧告の「ミュージアムは社会全体に語りかけるゆえに社会的な繋がりと団結を築き，市民意識の形成また集団的アイデンティティを考える上で，重要な役割を持つ公共空間である。」とも適合する。

この試案を可能にしていくためには，市町村にある博物館は設置理念を再確認し，機能別分化を明確にすると共に，孤立した博物館ではなく，文化芸術の拠点施設とし，地域振興，観光，スポーツ福祉，教育と融合協働する複眼的情報発信基地，つまり利用者を多角的にもてなす，地域間交流の場としての博物館へと進んでいくことを期待したい。そして改めて，「集メテ（＝収集）人ニ示シ（＝展示），見聞ヲ博クスル（＝教育）」という福澤の「博物館観」を問い直す時間を持ちたい。

8．むすび

今回は，「道の駅にある博物館」の事例をもとに，第五世代の博物館は「地域資源志向型博物館」に向かうという試案を提示した。しかし，この研究はまだ端緒についたばかりである。今後は，別表 1 にある「道の駅にある博物館」の悉皆調査を進め，それぞれの博物館の状況を探求することで，第五世代の博物館＝「地域資源志向型博物館」の実像を確立していかなければならないことを明記して，本研究ノートのむすびとしたい。

別表１-１　全国の道の駅にある博物館一覧表（2018年４月現在）

	道の駅名	博物館名	館種	郵便番号	住所
1	道の駅さるふつ公園	農業資料館	歴史	〒098-6222	北海道宗谷郡猿払村浜鬼志別214-7
2	道の駅オホーツク紋別	北海道立オホーツク流氷科学センター	科学	〒094-0023	北海道紋別市元紋別11-6
3	道の駅かみゆうべつ温泉チューリップの湯	屯田歴史館・チューリップ公園	歴史・植物	〒099-6329	北海道紋別郡湧別町中湧別中町3020-1
4	道の駅スタープラザ芦別	星の降る百年記念館	総合・プラネタリウム	〒075-0014	北海道芦別市北４条東１丁目1-3
5	道の駅おびら鰊番屋	旧花田家番屋	野外	〒078-3454	北海道留萌郡小平町鬼鹿広富35番地２
6	道の駅おんねゆ温泉	山の水族館	水族	〒091-0153	北海道北見市留辺蘂町松山１番地４
7	道の駅オーロラタウン93りくべつ	関寛斎資料館	歴史・人物	〒089-4315	北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線69
8	道の駅しかおい	神田日勝記念美術館	美術・人物	〒081-0222	北海道河東郡鹿追町東町３丁目２
9	道の駅阿寒丹頂の里	阿寒国際ツルセンター	動物	〒085-0245	北海道釧路市阿寒町上阿寒23線38番地
10	道の駅厚岸グルメパーク	水族館「プティ」	水族	〒088-1119	北海道厚岸郡厚岸町住の江２丁目２番地
11	道の駅なかさつない	とかち田園空間博物館	野外	〒089-1330	北海道河西郡中札内村大通南７丁目14番地
12	道の駅忠類	ナウマン象記念館	科学	〒089-1701	北海道中川郡幕別町忠類白銀町383番地１
13	道の駅樹海ロード日高	日高山脈博物館	科学	〒055-2301	北海道沙流郡日高町本町東１丁目297-12
14	道の駅サラブレッドロード新冠	レ・コード館	歴史・音楽	〒059-2402	北海道新冠郡新冠町字中央町１番地の４
15	道の駅むかわ四季の館	鈴木章記念ギャラリー	科学・人物	〒054-0042	北海道勇払郡むかわ町美幸３丁目3-1
16	道の駅サーモンパーク千歳	千歳水族館	水族	〒066-0028	北海道千歳市花園２丁目
17	道の駅望羊中山	森の美術館	美術	〒044-0223	北海道虻田郡喜茂別町字川上345
18	道の駅スペース・アップルよいち	余市宇宙科学館	科学	〒046-0003	北海道余市郡余市町黒川町６丁目４番地１
19	道の駅いわない	荒井記念美術館	美術・人物	〒045-0003	北海道岩内郡岩内町字万代47-4
20	道の駅シェルプラザ・港	貝の館	科学	〒048-1341	北海道磯谷郡蘭越町港町1402-2
21	道の駅だて歴史の社	宮尾登美子文学記念館	歴史・人物	〒052-0022	北海道伊達市梅本町57-1
22	道の駅縄文ロマン南かやべ	函館市縄文文化交流センター	歴史	〒041-1613	北海道函館市臼尻町551-1
23	道の駅横綱の里ふくしま	横綱千代の山・千代の富士記念館	歴史・人物	〒049-1312	北海道松前郡福島町福島190番地
24	道の駅みんまや	青函トンネル記念館	歴史	〒030-1711	青森県東津軽郡外ヶ浜町字三厩龍浜99
25	道の駅みさわ	三沢市先人記念館	歴史・人物	〒033-0164	青森県三沢市谷地頭４丁目298-652
26	道の駅しちのへ	七戸町立鷹山宇一記念美術館	美術・人物	〒039-2501	青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94
27	道の駅いなかだて	田舎館村埋蔵文化財センター・田舎館村博物館	歴史	〒038-1113	青森県南津軽郡田舎館村大字高樋字大曲63
28	道の駅たかのす	大太鼓の館	歴史	〒018-3301	秋田県北秋田市綴子字大堤道下62-1
29	道の駅ふたつい	二ツ井町歴史資料館	歴史	〒018-3102	秋田県能代市二ツ井町小繋（道の駅ふたつい内）
30	道の駅おおがた	大潟村干潟博物館	歴史	〒010-0494	秋田県南秋田郡大潟村字西5-2
31	道の駅かづの	祭り展示館	歴史	〒018-5141	秋田県鹿角市花輪字新田町11番地４
32	道の駅石神の丘	岩手町立石神の丘美術館	美術	〒028-4307	岩手県岩手郡岩手町五日市10-121-21
33	道の駅石鳥谷	石鳥谷歴史民俗資料館	歴史	〒028-3171	岩手県花巻市石鳥谷町中寺林7-7-1
34	道の駅平泉	柳之御所資料館	歴史	〒029-4102	岩手県西磐井郡平泉町字伽羅楽112-2
35	道の駅おおうち	出羽伝承館	歴史	〒018-0711	秋田県由利本荘市岩谷町字西越36
36	道の駅厳美渓	一関市博物館	歴史	〒021-0101	岩手県一関市厳美町字沖野々215-1
37	道の駅とざわ	最上川資料館	歴史・地滑り	〒999-6402	山形県最上郡戸沢村大字蔵岡3704-12
38	道の駅月山	文化創造館	科学	〒997-0403	山形県鶴岡市越中山字名平3-1
39	道の駅三本木	亜炭記念館	科学	〒989-6321	宮城県大崎市三本木字大豆坂63-13
40	道の駅寒河江	トルコ館	歴史	〒990-0523	山形県寒河江市大字八鍬字川原919-8
41	道の駅村田	村田町歴史みらい館	歴史	〒989-1305	宮城県柴田郡村田町大字村田字迫85
42	道の駅川俣	織物展示館	歴史	〒960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢東13-1
43	道の駅安達	和紙伝承館	歴史	〒969-1511	福島県二本松市下川崎字上平33-1
44	道の駅会津柳津	齋藤清美術館	美術・人物	〒969-7201	福島県河沼郡柳津町下平乙187
45	道の駅からむし織の里しょうわ	からむし工芸博物館	歴史	〒968-0215	福島県大沼郡昭和村大字佐倉字上ノ原1
46	道の駅那須野が原博物館	那須が原博物館	総合	〒329-2752	栃木県那須塩原市三島5-1
47	道の駅那須与一の郷	与一伝承館	歴史	〒324-0012	栃木県大田原市南金丸1584-6
48	道の駅日光	日本のこころのうたミュージアム・船村徹記念館	歴史・人物	〒321-1261	栃木県日光市今市719-1
49	道の駅月夜野矢瀬親水公園	国指定矢瀬遺跡 縄文時代	野外	〒379-1313	群馬県利根郡みなかみ町月夜野2936
50	道の駅草津運動茶屋公園	ベルツ記念館	歴史・人物	〒377-1711	群馬県吾妻郡草津町草津3-9
51	道の駅みなかみ水紀行館	淡水魚の水族館	水族	〒379-1617	群馬県利根郡みなかみ町湯原1681-1
52	道の駅富弘美術館	みどり市立富弘美術館	美術・人物	〒376-0302	群馬県みどり市東町草木86番地
53	道の駅みぶ	おもちゃ博物館	歴史	〒321-0211	栃木県下都賀郡壬生町国谷2300
54	道の駅明治の森・黒磯	旧青木邸那須別荘	野外	〒325-0103	栃木県那須塩原市青木27
55	道の駅おがわまち	埼玉伝統工芸会館	歴史	〒355-0321	埼玉県比企郡小川町小川1220番地
56	道の駅龍勢会館	龍勢会館	歴史	〒369-1501	埼玉県秩父市吉田久長32
57	道の駅大滝温泉	大滝歴史民俗資料館	歴史	〒369-1901	埼玉県秩父市大滝4277-4
58	道の駅和紙の里ひがしちちぶ	ふるさと文化伝習館	歴史	〒355-0375	埼玉県秩父郡東秩父村大字御堂441
59	道の駅なるさわ	なるさわ富士山博物館 鉱石ミュージアム	科学	〒401--0320	山梨県南都留郡鳴沢村8532-64
60	道の駅富士吉田	富士山レーダードーム館	科学	〒403-0006	山梨県富士吉田市新屋1936-1
61	道の駅きょなん	菱川師宣記念館	美術・人物	〒299-1908	千葉県安房郡鋸南町吉浜516
62	道の駅南房パラダイス	アロハ・ガーデンたてやま	植物	〒294-0224	千葉県館山市藤原1497
63	道の駅雷電くるみの里	雷雷貨料館	歴史	〒389-0512	長野県東御市滋野乙4524-1
64	道の駅アルプス安曇野ほりがねの里	臼井吉見文学館	歴史・人物	〒399-8211	長野県安曇野市堀金烏川2701
65	道の駅美ヶ原高原美術館	美ヶ原高原美術館	美術	〒386-0507	長野県上田市武石上本入美ヶ原高原
66	道の駅小坂田公園	蝶の博物館	科学	〒399-0712	長野県塩尻市大字塩尻町1090小坂田公園内
67	道の駅木曽ならかわ	木曽くらしの工芸館	歴史	〒399-6302	長野県塩尻市大字木曽平沢2272-7
68	道の駅白鳥	白山文化博物館	歴史	〒501-5104	岐阜県郡上市白鳥町長滝402
69	道の駅和良	和良歴史資料館	歴史	〒501-4507	岐阜県郡上市和良町宮地1155
70	道の駅ロック・ガーデンひちそう	石の博物館	科学	〒509-0403	岐阜県加茂郡七宗町中麻生1176-3

別表１-２　全国の道の駅にある博物館一覧表（2018年４月現在）

	道の駅名	博物館名	館種	郵便番号	住所
71	道の駅賤母（しずも）	東山魁夷心の旅路館	美術	〒508-0501	岐阜県中津川市山口１番地15
72	道の駅日本昭和村	里山ふれあい牧場	動植物	〒505-0003	岐阜県美濃加茂市山之上町2292-1
73	道の駅織部の里・もとす	織部展示館	歴史・人物	〒501-1201	岐阜県本巣市山口676番地
74	道の駅宮有柿の里いとぬき	古墳と柿の館	歴史	〒501-0401	岐阜県本巣市上保18-2
75	道の駅富士川楽座	プラネタリウムわいわい劇場	科学	〒421-3305	静岡県富士市岩渕1488-1
76	道の駅フォーレなかかわね茶若館	郷土資料館	歴史	〒428-0312	静岡県榛原郡川根本町水川71-1
77	道の駅天城越え	伊豆近代文学館，井上靖旧宅（移築）	歴史・人物・野外	〒410-3206	静岡県伊豆市湯ヶ島892-6
78	道の駅花の三聖苑伊豆松崎	伊豆の長八美術館	美術	〒410-3611	静岡県賀茂郡松崎町松崎23
79	道の駅開国下田みなと	ハーバーミュージアム・JGFAかじきミュージアム	歴史	〒415-0000	静岡県下田市外ケ岡１番地の１
80	道の駅伊良湖クリスタルポルト	やしの実博物館	歴史	〒441-3624	愛知県田原市伊良湖町宮下3000-65
81	道の駅朝日	日本玩具歴史館	歴史	〒958-0261	新潟県村上市猿沢1215
82	道の駅関川	せきかわ歴史とみちの館	歴史	〒959-3265	新潟県岩船郡関川村大字下関1311番地
83	道の駅芸能とトキの里	能楽館，佐渡能楽資料館	歴史	〒952-3421	新潟県佐渡市吾潟1839-1
84	道の駅良寛の里わしま	良寛の里美術館・菊盛記念美術館	美術	〒940-4525	新潟県長岡市島崎3938番地
85	道の駅漢学の里しただ	諸橋轍次記念館	歴史・人物	〒955-0131	新潟県三条市庭月434-1
86	道の駅越後出雲崎天領の里	天領出雲崎時代館・出雲崎石油記念館	歴史	〒949-4308	新潟県出雲崎町大字尼瀬6-57
87	道の駅西山ふるさと公苑	財団法人田中角栄記念館	歴史・人物	〒949-4135	新潟県柏崎市西山町坂田717-4
88	道の駅南魚沼	今泉記念館	美術	〒949-6363	新潟県南魚沼市下一日市855
89	道の駅能生	マリンミュージアム「海洋」	科学	〒949-1351	新潟県糸魚川市能生小泊3596-2
90	道の駅すず塩田村	揚げ浜塩の資料館	歴史	〒927-1324	石川県珠洲市清水町1-58-1
91	道の駅のとじま	石川県能登島ガラス美術館	美術	〒926-0211	石川県七尾市能登島向田町125-10
92	道の駅うなづき	うなづき友学館	歴史	〒938-0861	富山県黒部市宇奈月町下立687
93	道の駅ウェーブパークなめりかわ	ホタルイカミュージアム	水族	〒936-0021	富山県滑川市中川原410
94	道の駅カモンパーク新湊	射水市新湊博物館	歴史	〒934-0049	富山県射水市鏡宮299
95	道の駅砺波	郷土資料館	歴史	〒939-1382	富山県砺波市宮沢町3-9
96	道の駅井波	井波彫刻総合会館	歴史	〒932-0226	宮山県南砺市（井波）北川733
97	道の駅たいら	和紙工芸館	歴史	〒939-1905	富山県南砺市東中江215
98	道の駅一向一揆の里	白山市立鳥越一向一揆歴史館・農村文化伝承館	歴史	〒920-2368	石川県白山市出合町甲26番地
99	道の駅九頭竜	郷土貸料館，笛の炎料館	歴史	〒912-0205	福井県大野市朝日25-7
100	道の駅越前	越前ガニミュージアム	水族	〒916-0422	福井県丹生郡越前町厨第71号335-1
101	道の駅但馬のまほろば	朝来市埋蔵文化財センター	歴史・野外	〒669-5153	兵庫県朝来市山東町大月91番地2
102	道の駅北はりまエコミュージアム	北はりま田園空間博物館	野外	〒677-0022	兵庫県西脇市寺内517-1
103	道の駅アグリパーク竜王	田園資料館	野外	〒520-2531	滋賀県蒲生郡竜王町大字山之上6526
104	道の駅ちはやあかさか	村立郷土資料館	歴史	〒585-0041	大阪府南河内郡千早赤阪村大字水分266
105	道の駅東浦ターミナルパーク	淡路市立中浜稔猫美術館	美術	〒656-2305	兵庫県淡路市浦668-2
106	道の駅レスティ唐古・鍵	唐古・鍵遺跡史跡公園	歴史	〒636-0226	奈良県磯城郡田原本町大字唐古70-1
107	道の駅飛鳥	明日香まるごと博物館	歴史	〒634-0138	奈良県高市郡明日香村大字越6番2
108	道の駅育洲の里	春林軒	歴史・野外・人物	〒649-6604	和歌山県紀の川市西野山473
109	道の駅紀州備長炭記念公園	紀州備長炭発見館	歴史	〒646-0102	和歌山県田辺市秋津川1491番地の１
110	道の駅みなべうめ振興館	うめ振興館	歴史	〒645-0026	和歌山県日高郡みなべ町谷口538-1
111	道の駅大社ご縁広場	吉兆館	歴史	〒699-0721	島根県出雲市大社町修理免735-5
112	道の駅奥出雲おろちループ	奥出雲鉄の彫刻美術館	美術	〒699-1811	島根県仁多郡奥出雲町八川2500-34
113	道の駅ふぉレスト君田	はらみちお美術館	美術・人物	〒728-0405	広島県三次市君田町泉吉田311-3
114	道の駅豊平どんぐり村	豊平歴史民俗貸料館	歴史	〒731-1712	広島県山県郡北広島町都志見2609
115	道の駅萩往還	松蔭記念館	歴史・人物	〒758-0061	山口県萩市大字椿字桙ヶ坂1258
116	道の駅大阪城残石記念公園	残石博物館	歴史	〒761-4144	香川県小豆郡土庄町小海甲909-1
117	道の駅小豆島ふるさと村	手延そうめん館	歴史	〒761-4304	香川県小豆郡池田町室生１番地１
118	道の駅オリーブ公園	オリーブ記念館	歴史	〒761-4434	香川県小豆郡小豆島町西村甲1941-1
119	道の駅瀬戸大橋記念公園	瀬戸大橋記念館	歴史	〒762-0065	香川県坂出市番の州緑町6-13
120	道の駅恋人の聖地うたづ臨海公園	ユープラザうたづ（図書館，ホール）	図書館	〒769-0206	香川県綾歌郡宇多津町浜六番88番地
121	道の駅ことひき	観音寺市立郷土貸料館	歴史	〒768-0062	香川県観音寺市有明町3-35
122	道の駅第九の里	鳴門市賀川豊彦記念館	歴史・人物	〒779-0225	徳島県鳴門市大麻町桧字東山田50-2
123	道の駅藍ランドうだつ	吉田家住宅	野外	〒779-3610	徳島県美馬市脇町大字脇町55
124	道の駅大歩危	妖怪屋敷と石の博物館	歴史	〒779-5452	徳島県三好市山城町上名1553-1
125	道の駅美良布	アンパンマンミュージアム	美術	〒781-4212	高知県香美市香北町美良布1211
126	道の駅キラメッセ室戸	鯨館 鯨の郷	歴史	〒781-6833	高知県室戸市吉良川町丙890-11
127	道の駅マイントピア別子	マイントピア別子	歴史・科学	〒792-0846	愛媛県新居浜市立川707-3
128	道の駅みま	畦地梅太郎記念美術館，井関邦三郎記念館	美術・歴史・人物	〒798-1114	愛媛県宇和島市三間町務田180-1
129	道の駅虹の森公園まつの	四万十川学習センターおさかな館	水族	〒798-2102	愛媛県北宇和郡松野町大字延野々1510-1
130	道の駅四万十大正	四万十町郷土貸料館	歴史	〒786-0301	高知県高岡郡四万十町大正16-2
131	道の駅耶馬トピア	耶馬風物館	歴史	〒871-0202	大分県中津市本耶馬渓町曽木2193-1
132	道の駅なかつ	遺跡公園	野外	〒871-0152	大分県中津市加来814
133	道の駅やよい	番匠おさかな館	水族	〒876-0112	大分県佐伯市弥生大字上小倉898番地１
134	道の駅鯛生金山	地底博物館鯛生金山	歴史・科学	〒877-0302	大分県日田市中津江村合瀬3750番地
135	道の駅波野	神楽館	歴史	〒869-2801	熊本県阿蘇市波野大字小地野1602
136	道の駅阿蘇	ASO田園空間博物館	野外	〒869-2225	熊本県阿蘇市黒川1440-1
137	道の駅酒水	孔子公園	歴史	〒861-1212	熊本県菊池市酒水町豊水3393
138	道の駅通潤橋	通潤橋史料館	歴史・野外	〒861-3513	熊本県上益城郡山都町下市184-1
139	道の駅清和文楽邑	清和文楽館	歴史	〒861-3811	熊本県上益城郡山都町大平152番地
140	道の駅彼杵の荘	東彼杵町歴史民俗資料館	歴史・野外	〒859-3807	長崎県東彼杵郡東彼杵町彼杵宿郷430-5
141	道の駅うしぶか海彩館	漁業史資料館	歴史	〒863-1901	熊本県天草市牛深町2286-116
142	道の駅ゆいゆい国頭	常設・企画展示室	歴史	〒905-1412	沖縄県国頭郡国頭村字奥間1605
143	道の駅かでな	学習展示室	歴史	〒904-0202	沖縄県中頭郡嘉手納町屋良1026-3